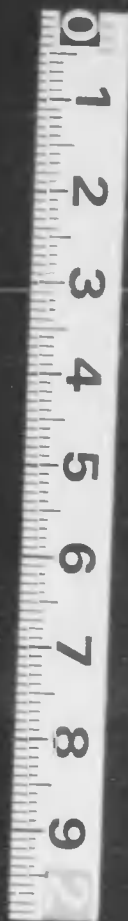


寫眞週報

編輯局報情  
十月廿二日 第二千九百四十七號

昭和十八年十月二十二日 第三千九百四十七號 日本新聞社發行 東京 日本橋區本町三丁目 電話 三九七五號

今ぞ學徒蹶起の秋



君、學徒は醜の御楯といでたつ  
 強靱な五體に  
 精悍の鬪魂をたぎらせ  
 皇國の隆替を双肩に擔うて――

學業に訣別し

名もいらす

命もいらす

ただ莞爾と微笑む君が顔

ますらを

悠久の大義に徹した丈夫を見る

(學徒に寄す)

社頭に出陣の誓ひ

靖國神社秋の臨時大祭殿かに  
 執り行はる

ハワイ真珠灣頭に花と散つた九軍神以下一万九千九百九十二柱の英靈神鎮まります靖國神社秋の臨時大祭は、十月十四日の招魂式に引續き、十五日から二十日まで厳かに執り行はせられた。一億國民が心からの懺悔を捧げ、護國の英靈に報い奉らんと、前線に戦場に敢闘を誓ひ、必勝の信念を固めた中にも、ひとしほ深い感激を以てこの日を迎へたのは、全國の學徒である。待ちに待つた學徒出陣の命は下り、空に志願した學徒の先陣は、すでに陸海の荒鷲として猛訓練をうけてゐる。續く學徒は、いまや醜の御楯といでたつ準備におこたりない。こゝ靖國の社頭にも、母とその子の出陣に誓ふ敬虔な姿がある。護國の神々も御照覽あれ、學も業も名もいらぬ、たゞ父祖の勳をついで、死ぬ道を見つけた日本男兒の尊い姿を。





# 今日よはり晴れて飛行豫備學生



土浦海軍航空隊の  
學艦入隊式

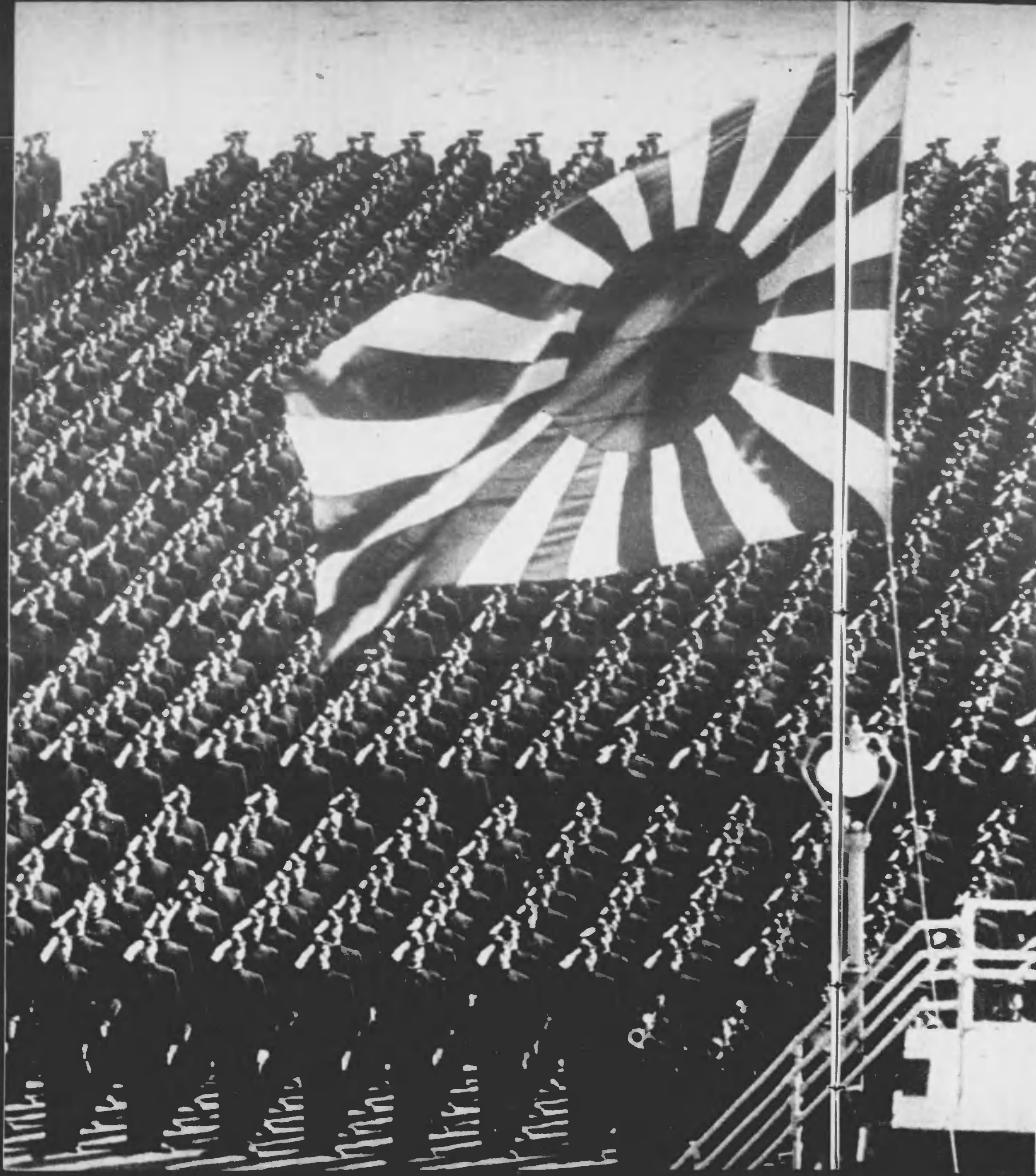
○聯合航空隊司令官久邇宮朝融王殿下  
長くも豫備學生に御答詞を賜ふ

「第〇期飛行専修豫備學生を命ず、第〇期一般専修豫備學生を命ず」九月十日、十三日に假入隊し、精密な適性検査後、實戦を繰り込んだ月金金の猛訓練をうけ、見ちがへるやうに逞しく求敵必滅の闘志を培つた學艦は、全學徒戦闘配置につけの號令下つたばかりの十月四日、土浦において入隊式に際し、長くも〇〇聯合航空隊司令官海軍少將久邇宮朝融王殿下御みづからの命課傳達、更に御訓示を賜はつて、こゝに學艦は晴れの帝國海軍航空隊員となつた

南海の決戦場から歸つた海軍の教官に教へられ、鍛へられ、先輩の生々しい空戦の體驗と烈々たる氣魂とを身につけて學艦が太平洋の空の決戦に出撃する日は近い學徒總進軍のとき、先陣學艦に續いて空へ征かう。敵の非烈を破挫し、皇國を富嶽の安きにおくは、君達學徒の双肩にかゝつてゐるのだ



純白の手袋が「注目」の號令にさつとあがる中を、大軍艦旗は秋風にはためいて、すらくと揚揚される









# 翼にうちこむ再起の闘魂

傷痍軍人出征遺家族  
特設航空機製作工場

福岡市



朝禮に改めて今日一日の活動をする



今日も大いに頑張るぞと足も軽く門に入る 右真上  
女工員たちを親切に指導する傷痍の男工員



傷痍者の堅持になつて二日おきで職員が合宿した  
傷痍者達へ、勇士への敬意の表示に機魂を打ちこむ



早くも机をこきり削りに揃って  
女工員は主要の部分をつかむ

お國に手を足を捧げた傷痍の勇士や、戦線へ見を送つた家族たちの中にも、航空決戦の現實に迎へて、戦ふ驍馬の人々に立ち混つて生産増強に挺身する逞しい姿を見受けますが、こゝに紹介する福岡市坪塚町の山内航空機工場は、この傷痍勇士と出征遺家族たちのために設けられた、特設航空機製作工場に先づける特設工場ともいへませう。

目下のところは若者の練成に不可欠の滑空機を造つていますが、やがては空の決戦場につたが作業に、工場一家となり、ともどもにいたはり扶け助まを合つて、たぎり立つ初々の闘魂を、一貫一貫の製作に打込んでゐます。

機魂は兵力増強を努めつゝあり  
帝國陸海軍守備隊の勇戦部隊と相  
俟ち、海軍航空隊並びに海上部隊  
は戦力増強の阻止撃攘に努め、南  
島附近の上空および海上において連  
日晝夜の別なく敵と交戦し、大なる  
打撃を與へるも、敵反攻の勢ひ  
は侮り難きものなり。

三十一日 ●ニューギニア島サ  
ラモア附近の我が部隊は六月三十日  
以降ナツワウ島およびワウ附近より  
優勢なる空軍支援の下に前進せる敵  
をカミタム、ムボ、ナツワウ島の  
線において激戦し、これに大打撃を  
與へたる後、目下サラモア島東部地  
区において激戦中なり。右期間敵に與  
へたる損害戦死傷五千六百以上なり  
(一)ニューギニア方面我が航空部隊  
は地上戦闘に協力すると共にベナ  
ベナ、アプアプ等の敵航空基地に進  
攻し、武力は敵機の來襲を邀撃し、  
艦隊なる戦闘を繰返すなり。同期間  
に敵機二百五十八機、うち不備百五  
十三機を撃墜せり。我が方の損害百  
三機なり。

九月  
一 日 ●日本海軍航空隊多数南島  
島に集結し、敵機は艦隊をもつて陸  
上を砲撃せり。

二 日 ●南島島に對する昨一日  
の敵襲に關しその後報明せるところ  
によれば、攻撃せる敵は航空母艦を  
基幹とする機動部隊にして、戦艦延  
約百六十機をもちて地上施設を攻撃  
せるものなり。この間敵に與へたる  
損害、撃墜一機、我が方地上にお  
り人員おびた施設の損害は極めて輕微  
なり。

●九月二日敵機約四十機ニューギニ  
ア島ウヱックに集結、同港に碇泊中  
の我が輸送船を攻撃せり。我が砲隊  
砲隊および地上火器これを迎撃し、  
その十九機を撃墜せり。我が方輸送  
船一隻沈没。

三 日 ●ニューギニア島コ  
ロンバンガラ島およびペラペラ島  
をめぐるソロモン方面その後の戦況  
は依然膠着なり。

(一)ニューギニア島ムンダの  
北方海岸地帯およびバイロコ地帯に  
て敵と交戦せし帝國海軍守備隊は  
大なる打撃を與へつゝありしが、八  
月二十八日以降コロンバンガラ島  
およびニューギニア島の中間島嶼  
地帯にて激戦中なり。

(二)ペラペラ島においては未だ  
地上戦闘は行はれず、敵は依然として  
兵力の増強を計つてあり。

●所在帝國海軍航空隊、海上部隊  
および陸軍守備隊の奮闘による八月  
中の戦果左の如し。

(一) 敵に與へたる損害

艦種	沈没	撃破	撃沈
航空母艦	0	0	0
戦艦	0	0	0
重巡洋艦	0	0	0
輕巡洋艦	0	0	0
驅逐艦	0	0	0
水上機母艦	0	0	0
海軍工廠	0	0	0
その他	0	0	0
合計	0	0	0

右のほかに地上における敵の戦死傷約  
三千を下す。

(二) 我が方の損害

沈没 大破 自爆および未歸還  
艦隊輸送艦 1  
陸軍用母艦 1  
小形母艦 1  
飛行機 若干

四 日 ●(一) 九月四日早朝敵  
は有力なる輸送船隊をもつて、ニュー  
ギニア島アエ東方三十五キロ、ホボ  
イ附近に上陸を開始せり。

(二) 我が陸海軍航空部隊は直ちに  
出動、緊密なる協同の下に敵上陸地  
帯附近および上陸において敵を攻撃  
中にして、現在までに判明せる戦果  
左の如し、敵輸送艦六隻、巡洋艦  
一隻および母艦多数を撃沈し、輸送  
船五隻および驅逐艦一隻を撃破炎上  
せしめ、敵機約十七機を撃墜せり。  
我が方の損害、自爆および未歸  
還九機なり。



# 記隊検臨



治正中田 兵火等上軍海

配置につけのバザーが鳴った。低くそれだけ不気味に響く。流れる音が、遠く船外に流れるかと思ふほど、夜も静かであった。海も静かであった。

「一番砲塔上し」  
「二番砲塔上し」  
「水雷砲塔上し」

「今右四十度、〇千、方位角有二十度、おつかに近づきました」  
「のがさずに、つかまへてをれ」

「船影は」  
「おつかに近づきました」

「今右四十度、〇千、方位角有二十度、おつかに近づきました」  
「のがさずに、つかまへてをれ」

「船影は」  
「おつかに近づきました」

「今右四十度、〇千、方位角有二十度、おつかに近づきました」  
「のがさずに、つかまへてをれ」

「船影は」  
「おつかに近づきました」

「今右四十度、〇千、方位角有二十度、おつかに近づきました」  
「のがさずに、つかまへてをれ」

「船影は」  
「おつかに近づきました」

「今右四十度、〇千、方位角有二十度、おつかに近づきました」  
「のがさずに、つかまへてをれ」

「船影は」  
「おつかに近づきました」

「今右四十度、〇千、方位角有二十度、おつかに近づきました」  
「のがさずに、つかまへてをれ」

「船影は」  
「おつかに近づきました」

「今右四十度、〇千、方位角有二十度、おつかに近づきました」  
「のがさずに、つかまへてをれ」

「船影は」  
「おつかに近づきました」

「今右四十度、〇千、方位角有二十度、おつかに近づきました」  
「のがさずに、つかまへてをれ」

「船影は」  
「おつかに近づきました」

「今右四十度、〇千、方位角有二十度、おつかに近づきました」  
「のがさずに、つかまへてをれ」

「船影は」  
「おつかに近づきました」

「今右四十度、〇千、方位角有二十度、おつかに近づきました」  
「のがさずに、つかまへてをれ」

「船影は」  
「おつかに近づきました」

「今右四十度、〇千、方位角有二十度、おつかに近づきました」  
「のがさずに、つかまへてをれ」

「船影は」  
「おつかに近づきました」

「今右四十度、〇千、方位角有二十度、おつかに近づきました」  
「のがさずに、つかまへてをれ」

「船影は」  
「おつかに近づきました」

「今右四十度、〇千、方位角有二十度、おつかに近づきました」  
「のがさずに、つかまへてをれ」

「敵かな、魚雷艇でないとするは何物だらう」  
「敵かな、魚雷艇でないとするは何物だらう」

「敵かな、魚雷艇でないとするは何物だらう」  
「敵かな、魚雷艇でないとするは何物だらう」

「敵かな、魚雷艇でないとするは何物だらう」  
「敵かな、魚雷艇でないとするは何物だらう」

「敵かな、魚雷艇でないとするは何物だらう」  
「敵かな、魚雷艇でないとするは何物だらう」

「敵かな、魚雷艇でないとするは何物だらう」  
「敵かな、魚雷艇でないとするは何物だらう」

「敵かな、魚雷艇でないとするは何物だらう」  
「敵かな、魚雷艇でないとするは何物だらう」





必要不急用を抜き出し、賃金を受取り、お釣を渡す。しかも一銭の間違ひなく、彼女達は、この仕事を立派にこなしている。



# 国鉄の現場にも 女性の敢闘 始まる

戦下の前途に異夜のわがちも最大限の奮闘をこめて、戦線にも男子が奮闘の命が下つた。出札係、改札係、車掌さんの一部の人々は、男子ならでは果し得ない、より重要な職場へ轉進しようとしてゐるのだ。そして、これに代つて登場するのは、『女性上職場へ』の要請に響いて立ち上つた女性たちだ。

この心懸けを踏まえたため、職場切替へにあつて、その間、かりにも決戦輸送に一分一秒の遅滞があつては大變と、全鐵道管区には早くもその準備が進められてゐるが、すでに男子職員に代つて現場に立ち、甲斐々々しく勤務してゐる東京鐵道局管内の有樂町駅その他や、男子職員に代替する女子職員の養成訓練に全力を注いでゐる門司鐵道教育所、あるひは、すでに現場を女性にゆづつて終業する等、必勝國策強化に協力する國鉄の動きこそは、いま國內全般に響きつゝ、ある力強い姿であらう。代りゆく者も、あとをつぐ者も、そこに一片の私心功利の念なく、ひたすら國家の要請に應ずる姿、これこそ前線の將兵と共に闘ふ姿である。

あとかからなくとひつきりなしに役務する乗客を迎へて、乙女改札係の誦はいよく

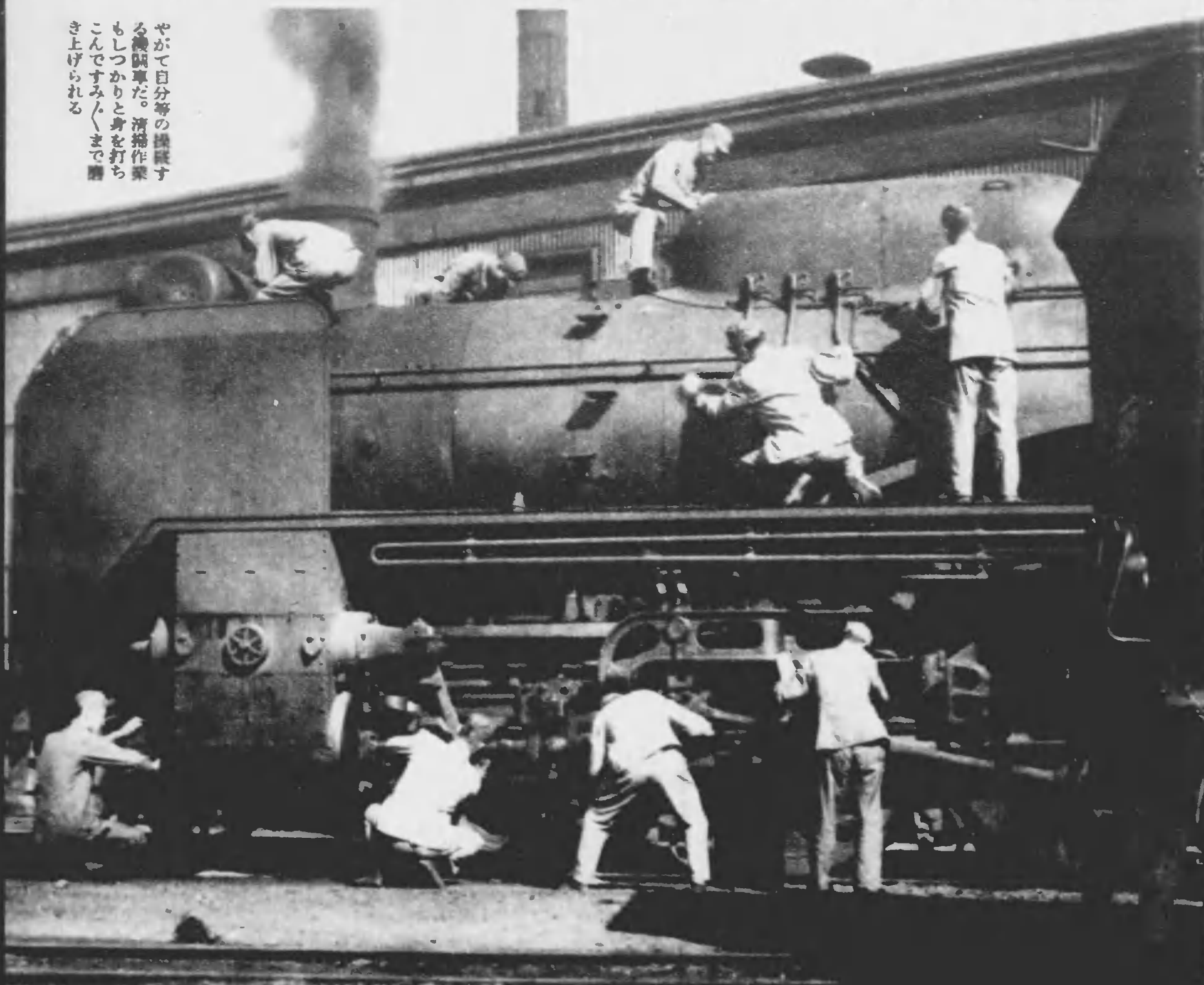
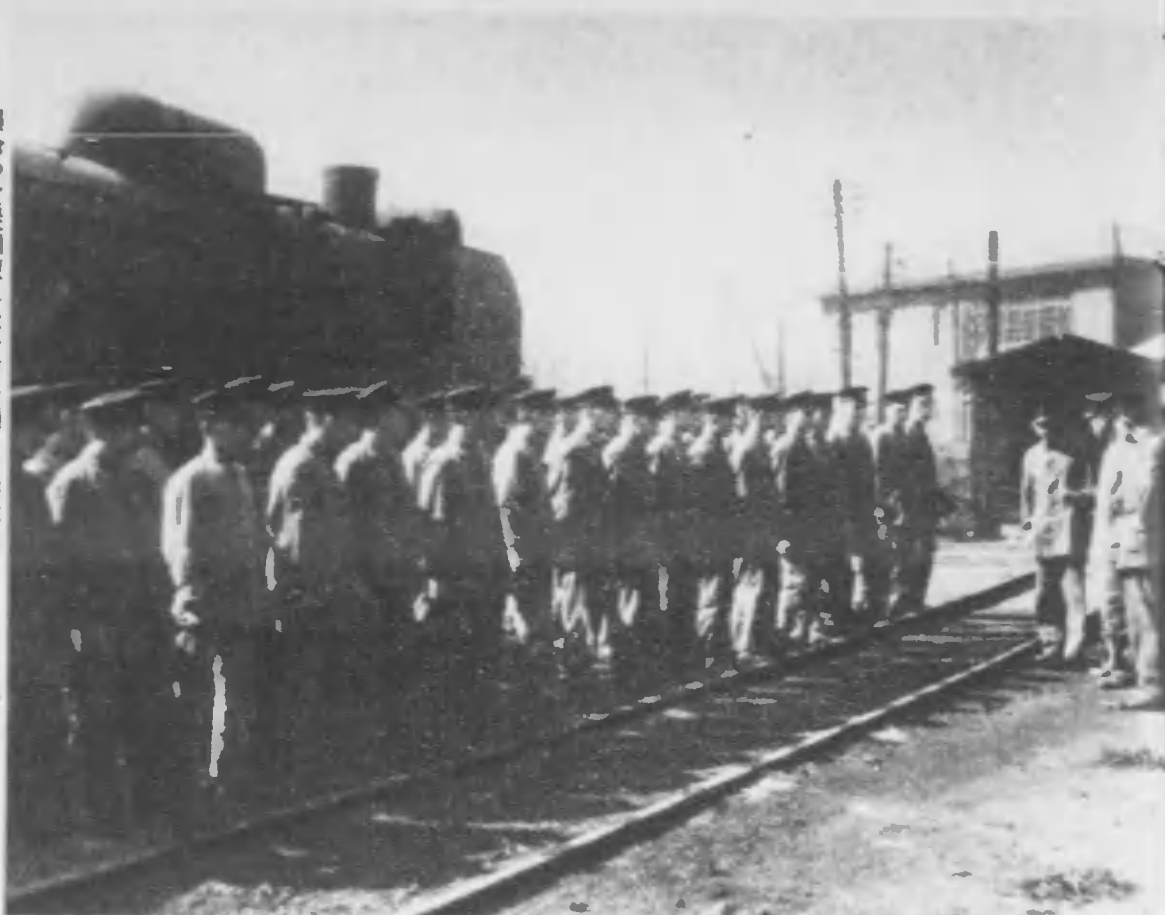


出札に時間がかかると、この輸送の大事な支線になる。犯罪正當が出札の要請に響いて、一人一人の心から、果敢と切り進む女性、一歩一歩、

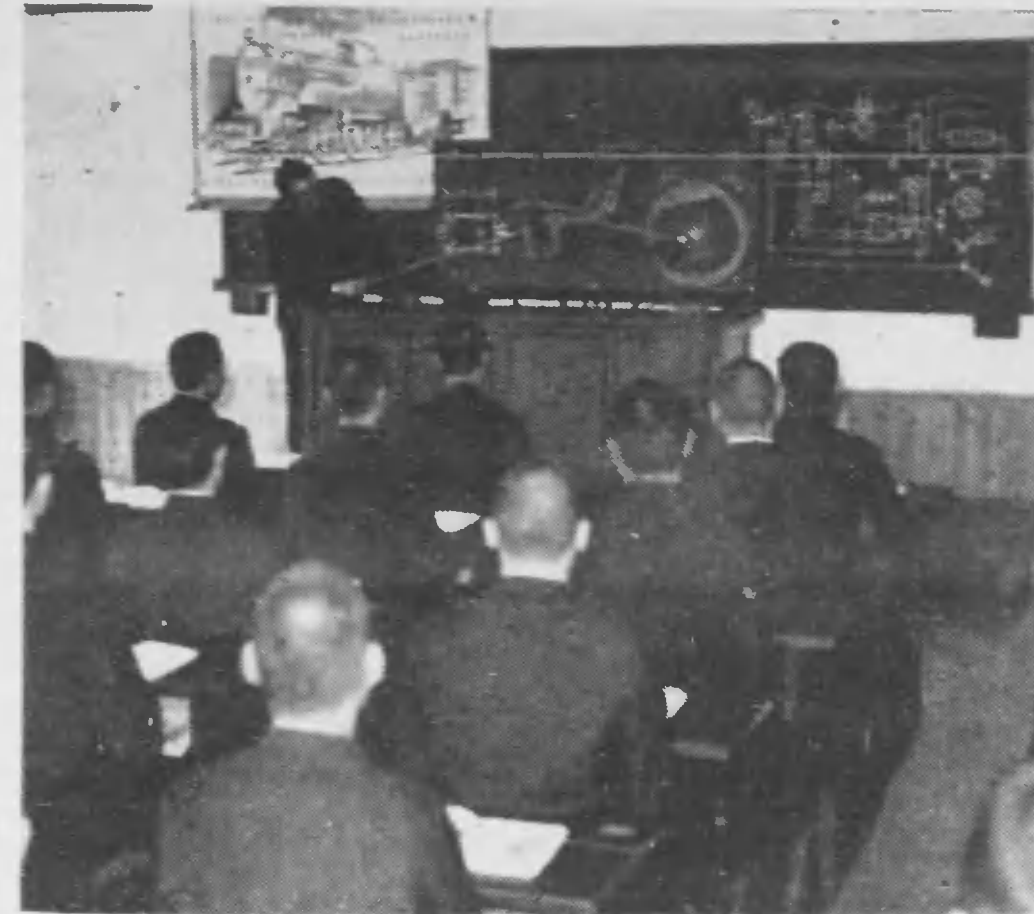




← 戦命の投炭訓練に金子君の顔には汗が滲んでくる。目も眩んでくる。だがこの訓練に耐へ得ればこそ、男子として決戦戦線の尖兵となるのだ。



やがて自分等の操縦する機関車だ。清掃作業もしつかりと身を打ちこんですみ／＼まで磨き上げられる。



## は員職子男 陣送輸鐵國 へ線一第の

改札係だった金子君(五)は鉄を女子職員に譲り、陣送輸鐵國へ線一第の

▲ 阪神鉄道教習所の特別訓練士養成所には「舊き職場かへりみはせじ」と、出札や改札の仕事をもぎよく女性にゆづつて、國鐵輸送陣の尖兵、機關士となつて男子たるの生甲斐に身を挺せよと、着ての出札、改札係諸君は、寸暇を惜しむ眞摯になつて、技術の訓練に、肉體の鍛錬に、激しい修業をつけてゐる。やがて決戦型機關車を運轉して、決戦輸送の先頭をきつて急進する雄々しい姿を見せることであらう。こゝにも必勝態勢強化方策の輝かしい勝利がある。

▲ まづ基礎知識の勉強だ。機関車の模型を使って、構造を平易に説明し、理解させる。

▲ 機関車の基本訓練だ。金子君の頭には「つかり変換を覚得せよ」との訓が響いてゐる。機関車の前に整列して教師の注意をきき、金子君達は「つかり」胸を躍らせるのだ。





# 光と兵器

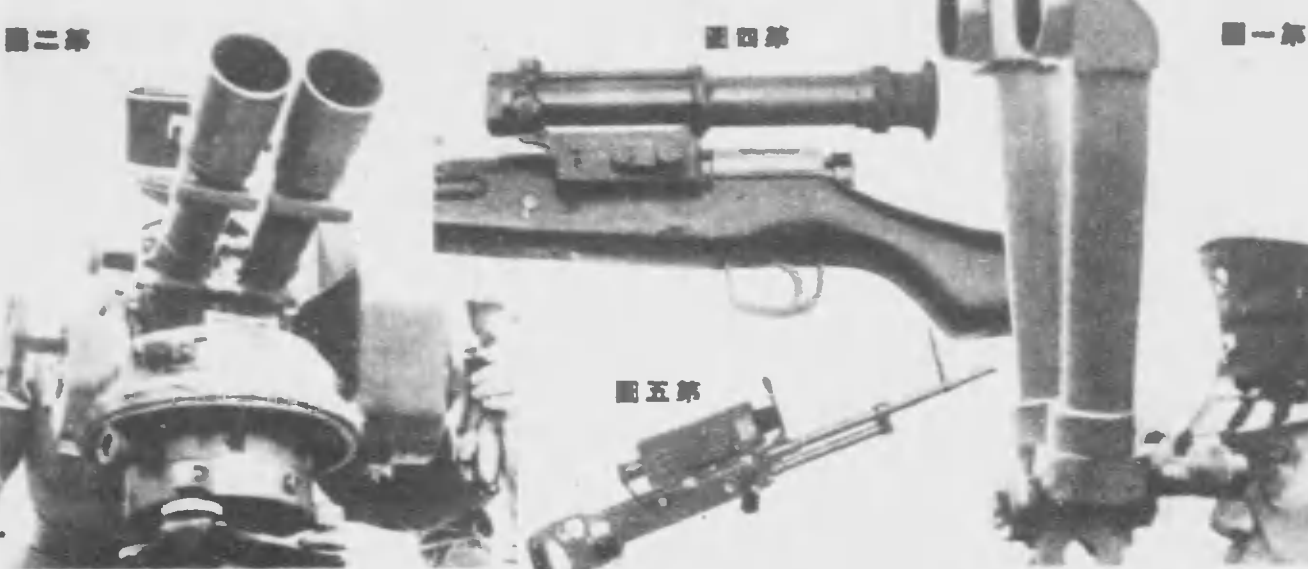
光を用いる兵器には、純粋の光学兵器と電氣を用いる電氣光学兵器とがある。特に科學的興味のあるのは後者であるが、順序として先づ前者から簡単に説明しよう

## 光學兵器

第一回は砲臺鏡といつて、プリズムを用ひて對物鏡(物體に對する側のレンズ)を左右に擴げて(双眼の間隔が廣いほど遠近の感じがよく出る)双眼を透り、射撃の時に彈丸が命中したか、或ひは遠近がどの程度かを観測するために用ひるものである。また、現在軍用双眼鏡としては、對物鏡の直徑が二十センチで、倍率も三十倍程度の優秀なものもあるが、手に持つて見る双眼鏡は倍率が大きいと振へて見え難いので、大體、六、七倍位が適當である。第二回は對空双眼鏡で、飛行機の捜索等に用ひられるものである。また、戰爭が激烈になると、外部に身體を暴露してゐるものはなくなり、或ひはさうでなくとも、遠距離を偵察する際には、目標が水平線の彼方に隠れたり、途中の森林や山に遮られるから、これを観測するためにプリズムを利用して眼玉だけ高く上げるための觀測鏡といふものができてゐる

# 3學科の器兵新 機話電線光

ドイツでは、前大戦に既に三十メートルからの高さのものを使ってをり、また、海軍の潜水艦に使つてゐる潜望鏡等もやはり同じやうな意味合ひのものである(第三回)。更に深く隠れたものに對しては、氣球或ひは飛行機を利用するほかはなく、これにはそれ／＼特殊の偵察機ができてゐる。近代の戰場における目標は、艦艇や地形の利用等が巧妙になり、それを発見したり照準したりすることが困難になつてきたばかりでなく、



第一回

また遠距離目標に對しても射撃を要求されるものが多くなつてきたので、小銃や機關銃等にも各種の眼鏡を利用するやうになつてきた。第四回は小銃用の照準眼鏡である。また、深い壕の中とか、或ひは大砲の防備の後方で、かりに横や後を狙つて射撃する間接照準のために、そのまゝの姿勢で横や後が見えるやうなパノラマ眼鏡といふものができてゐる

次に距離を測るために、陸軍では測距機、海軍では測距儀といつてゐるものがある。われ／＼は肉眼で距離を測ることができず(片眼ではできない)、肉眼の間隔は約六十ミリなので若干の不精確であるから、この間隔を二つと擴げてやれば、距離をそれだけ精確に知ることが出来るのである。この意味で測距機といふのは、一本の長い眞鍮を横たへ、その両端にプリズムを置き、中の左右に二箇の望遠鏡を入れて中央部に覗くところを設けたもので、いろ／＼のプリズム等の性かに機械装置があり、肉眼より入つて來た目標像を合はせて、双眼で距離を測定したり、又は一服で上下に合致させる方式のものもできてゐる。取扱も簡單で、その精度は兩端プリズムの間隔(これを基線長といふ)一メートルのものには距離三千メートルで四十メートル位、基線長十メートルのもので二万メートルの距離に同じく四十メートル位の誤差で測定できる。これと同様の原理に基づくもので、飛行機の高さを測定し得るやうになつてゐるものを測高機と呼んでゐる

第五回は電氣眼鏡といつて、彈丸が目標に的中したかどうかを見るためのもので、試験射撃等に使はれる。第六回は最近の外務に出たおたもので、高射砲陣地から三キロほど離れた位置にこ



第二回

## 第七回 機話電線光 第九回 機話通光電 第八回



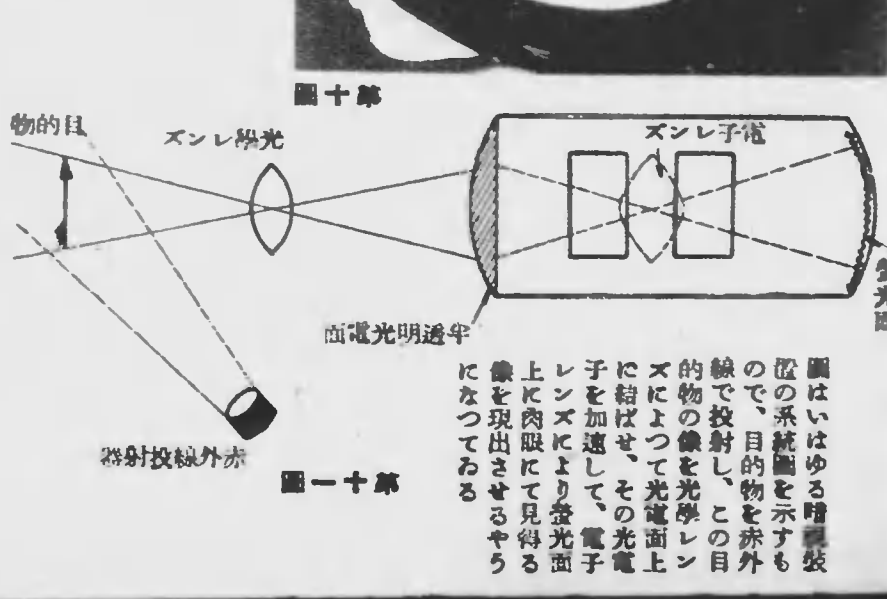
の機械を運んで、高射砲の彈道を映寫するもので、記録結果は直ちに現像され、砲兵中隊に電話で通達されるやうになつてゐる。圖に見るやうにこのやうな仕事はすべて女子が受持つてゐるのである

電氣光学兵器

次に、防空に必要な照空灯も光を使ふ主要な兵器であるが、普通のものはさて置き、第七回は風変わりな光芒を放射するイギリスの照空灯で、空襲してきた飛行機を方眼上に標定しようといふものである。第八回は回光通信機といつて、光の點滅、または光色の變化、或ひはこの兩者を併用して見通しの出来る兩地間で通信を行ふもので、普通、反射鏡を用ひ光束を集めて目標に送るやうになつてをり、光源にはアセチレン、電池等を用ひ、また晝間には太陽光線を利用することも出来る

不可視光線の利用

戦場で使はれる不可視光線には紫外線と赤外線とがあるが、赤外線の方が多く使はれる。赤外線といふのは、赤色光より波長の大きな光線で、眼



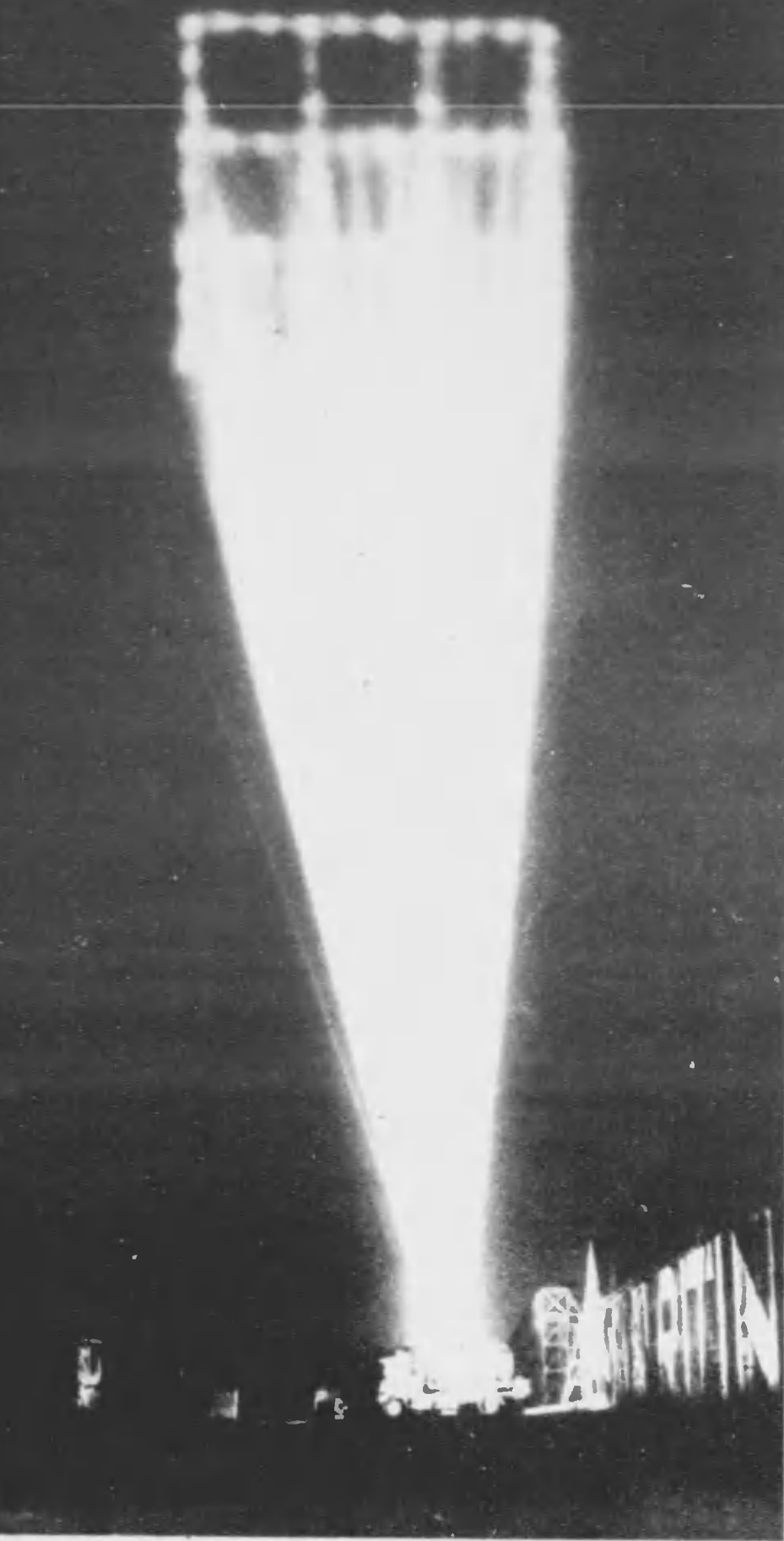
第十回

に見ることはできないが、霧や雲等をも比較的よく透過する性質を持つてゐる。赤外線は特殊なフィルターを使って普通の可視光線より簡単に分離することができ、またこれを受信するには光電管といふもので、この赤外線を電流に變へることが出来るのである。この電流は増幅真空管によつて強大にすることが出来るから、受話器でモールス符號を聞くこともできるし、さらに肉聲をも再生させることができるわけである。従つて、回光通信機のやうに、この見えない光、即ち赤外線を使つて通信すれば、秘密保持上、極めて好都合なわけである

第九回は光線電話機で、可視光線と不可視光線の兩方に使用できるやうに造られてゐる。また夜間望遠鏡といつて、暗夜に遠景を見ることが出来る装置もある。これには不可視光線を利用して照明しておけばよいので、前記の光電管を利用して大望遠鏡でこれを取れば、暗夜でも遠景を見得るわけである。第十回は夜間望遠鏡で見た光景である。第十一回はこの原理を示すものである。このやうに暗くて肉眼だけでは外界の物體を見ることができない場合に、或る手段を講じてこれを見ることを、一般に暗視といつてゐる。この暗視(ノクトビジョン)は、今次戦にも既に使用され始めてゐるやうであり、テレビジョン、或ひは電波兵器と共に科學決戦の標本を益々深刻化しつつあるのである



第三回



陸軍兵器行政本部 陸軍兵技中尉 塚原和夫 17





照準器

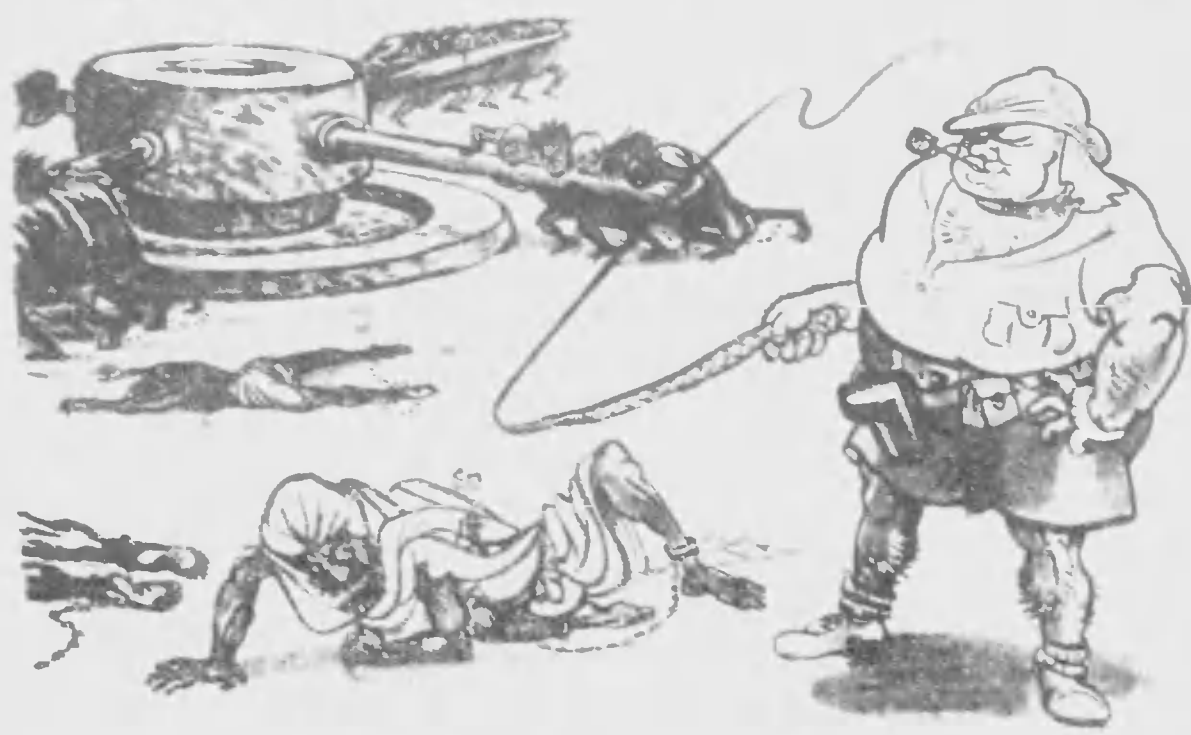


約東も勝つとも勿論はしめつからんが、所  
違ふまい汁を、吸ひよるもの

### 鬼畜米英

此等の非難  
二英米の  
其の目的  
の目的を  
めよりと非  
にも彼等は  
みるのた

行左戸雲



### 大東亞戦争漫日誌



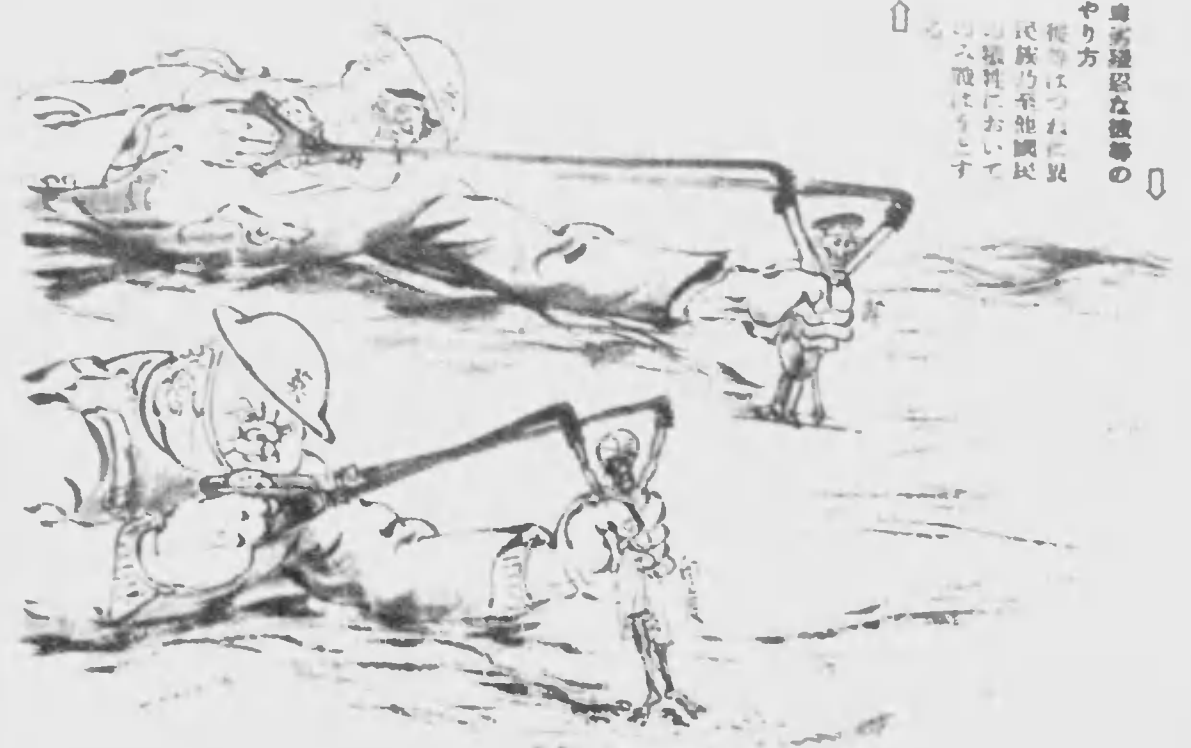
才評優を場行飛 闘空初がムードスライド



極々大氣意の子隊入説新驚奇



戦自新の戦軍方三隊部ラリゲの方南西蘭太



身者種忍な彼等の  
やり方  
彼等はつねに異  
民族の他國民  
の犠牲に於いて  
可成りはしす



### 信

少しでも多くの食糧を増産しようと、三重縣桑名郡多度  
村國民學校のヨイコたちは、先生と一緒に荒地の開墾に  
奮命です。この汗の努力が、やがて立派な實をむすぶこと  
でせう。

あつばれ土俵入り 宮城縣 岩淵友義  
宮城縣古川町古川國民學校ではヨイコたちに戦闘精神を  
た、き込まると、横綱國旗の指導で花々しく土俵開きをし  
ました。うん、とふんはつて、ヤンとばかり、さすがの照  
耀もふらむ、ふらむ  
鐵路を復る 愛知縣 太田正勝  
すらりと並んだ我、これは鐵路除害に挺身する愛知  
縣風車寺家女學校の乙女たちの奮闘です。けいしい戦  
ひに大切な物資をはこんでくれる鐵路を復らうと、指先を  
血にまみらせての勤勞作業です  
強い兵隊になるために 長野縣 馬場直一郎  
僕等も立派な體をつくらんと、陽を浴びてすくくと立  
上つたヨイコの方がよいな。これは、重荷運搬運動を訓  
練中の長野縣小縣郡國國民學校の児童たちです。がっつち  
した五體にたくましい氣魄が見えます



### ★表紙

臨時徴兵検査は十月二十五日  
から十一月五日まで、入營は十  
二月一日と決つた  
出陣の日までであらうか、  
検査のこと、入營のことなど、  
學徒の心は、こんどの決定が思  
ひがけなかつただけに、感激と  
緊張のうちにあわただしく先の  
日に駆け出さうとする  
た、待て、出陣の準備はよ  
いか、身の鍛錬、心の修練は、  
晴れの日まで、一日  
半刻の間もゆるめ無駄にはすまい  
早稲田大學學生の軍事教練





寫眞週報 昭和十八年十月廿一日 東京新聞社發行 昭和十八年十月廿一日發行 每冊一角五分 全年一元五角 郵費在內

二七の億  
貯蓄  
總進軍



# 五十銀行

雄武野間入 取頭

寫眞週報  
(無斷轉載)

昭和十八年十月  
廿一日印刷發行

編輯者  
情報局

東京部  
水田町一丁目

印刷者  
内閣印刷局

東京部  
町田町大手町

定價  
一部十錢  
(送料一錢)

外國郵送には  
も地域送は依  
共一部十九錢  
▲特大號の場合  
其の都度御達  
金より差額を申  
受けます

申込所  
全國各地官報  
販賣所  
新聞販賣店  
寫眞材料店

本誌掲載の寫眞中、攝  
影者名或は提供者名  
を特附してないもの  
は財団法人寫眞協會  
の製作によるもので  
又海軍關係の寫眞は  
製は海軍省承認第五  
二四二號です

本誌を、兩組や農場  
て回覧するなど、出  
来るだけ有効に利  
用下さい

前線慰問にも  
またお読みになつた  
ら本誌を前線慰問に  
送りませう。送料は  
内地と同様に封封あ  
るひは開封して第  
三種と明記すれば、  
一部送ります

内閣印刷局印刷發行

（列情掲載）A4規格定額はより大の資本）